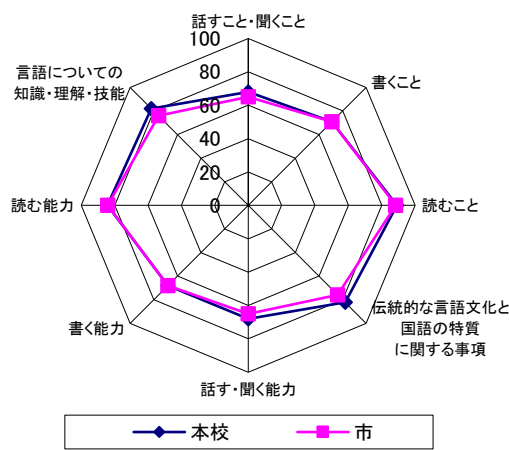


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.0	65.0	62.9
	書くこと	70.9	70.9	71.3
	読むこと	89.1	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.2	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	68.0	65.0	62.9
	書く能力	68.1	68.0	68.0
	読む能力	84.3	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	82.1	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取り、答えを選択する問題の正答率は、市の平均より高い。 ●司会者の役割を理解して、計画的に話し合うために、友達の発言に対してどのように答えるかを記述する問題では、34.6%とかなり低い。このことから、話し合いの内容は理解できるが、自分の意見を話すことは苦手であることが分かる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合い活動では、聞き取った内容を受けて自分で考え、適切に話す力が不十分である。様々な意見を受けて、それをまとめ、話し合いをスムーズに進めるためにはどうすればいいか、臨機応変に対応できる力を育てたい。そのために、自分の意見を述べたり、司会者として話し合いを進めたりする活動を多く取り入れていきたい。
書くこと	●領域の正答率は市の平均と同率であるが、70.9%と決して高くはないことから、書くことに対して、全体的に苦手意識が高いことが分かる。特に資料の内容を読み取って、文章を適切に書く問題の正答率が、市の平均より低い。このことから、グラフの内容を読み取る力と読み取ったことを文章化することが得意ではないことが分かる。	・まず、自分の意見を述べたり文章に書いたりすることに慣れさせるための機会を意図的に設ける。 ・情報やグラフを正確に読み取るとともに、読み取ったことを自分の言葉でまとめられるようにする。 ・書いた文章を友達と読み合い、感想や改善点を伝え合うことで多様な表現に触れ、互いに書く力が高められるようにする。
読むこと	○物語の内容を読み、登場人物の心情や表現の工夫を読み取る問題の正答率は、88.8%と市の平均より1.4ポイント高かった。	・読むことの領域は、比較的力量が付いてきているが、さらに文章の内容を的確に読み取ることができるようにしたい。 ・資料や問題文の重点や最も伝えたいこと、文章の構成を考えながら読む習慣を身に付けさせる。 ・普段から読書に親しむ環境づくりをすることで、読む力の底上げを図りたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字を読む」「漢字を書く」については、設問ごとに違いはあっても、市の平均を大きく上回ることができた。 ●国語辞典の使い方の理解が、市の平均を下回っている。	・国語辞典の使い方については、再度指導し、国語の授業以外でも普段から使う機会を増やすとともに、問題にも慣れさせる必要がある。 ・漢字の読み書きは、今後も家庭学習や小テストなどで継続的に取り組んでいく。